

敬老祝賀会歌集



明日があると

いつもの駅でいつも逢う

セーラー服のお下げ髪

もう来る頃 もう来る頃

今日も待ちぼうけ

明日がある 明日がある

明日があると

ぬれてるあの娘 コウモリへ

さそつてあげよと待っている

声かけよう 声かけよう

だまつて 見てる僕

明日がある 明日がある

明日があると

明日あるさ 明日がある

若い僕には 夢がある

いつかきっと いつかきっと

わかってくれるだろ

明日がある 明日がある

明日があると

知床旅情

知床の岬にはまなすの咲く頃
思い出しおくれ俺たちのことを

飲んで騒いで丘に登れば
遙か国後に白夜は明ける

旅の情けか 酔うほどにさまい
浜に出てみれば 月は照る波の上
今宵こそ君を 抱きしめんと
岩陰によれば ピリカが笑う

別れの日は來た 羅臼の村にも
君は出て行く 峠を超えて
忘れちゃ嫌だよ 気まぐれカラスさん
私を泣かすな 白いカモメよ

白いカモメよ

ふるさと

兎追いし かの山

小鮎釣りし かの川

夢は今もめぐりて

忘れがたき ふるさと

如何にいます父母

恙なしや 友がき

雨に風に つけても

思いはずる ふるさと

いろぞしをはたして

いつの日にか 帰らん

山はあおきふるさと

水は清きふるさと

朧月夜

菜の花畠に 入日薄れ

見わたす山の端 霞ふかし

春風そよふく 空を見れば

夕月かかりて におい淡し

里わの火影も 森の色も

田中の小路を たどる人も

蛙のなくねも かねの音も

さながら霞める 朧月夜

村祭り

村の鎮守の神様の

今日はめでたい お祭り日

どんどんひやらら

どんどんひやらら

朝から聞こえる 箫太鼓

年も豊年満作で
村は総出の大祭り

どんどんひやらら

どんどんひやらら

夜まで賑わう宮の森

紅葉

秋の夕日に照る山紅葉
濃いも薄いも数ある中に
松をいろどる楓や薺は
山のふもとの裾模様

渓の流れに散り浮く紅葉
波にゆられて離れて寄つて
赤や黄色の色様々に
水の上にも織る錦